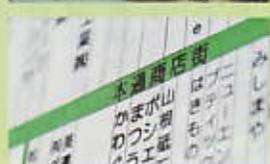


商店街に溶け込む高校生たち



鳥取県 米子市 高校生ショップ「エデン」





この日、「まちなか「なんDEMOショップ」エデン」では、いつもどおり四時にシャッターを閉めたが、高校生たちが帰途についたのは七時近くになった。いつもはせいぜい一時間ほどで終わる売り上げの集計に時間がかかってしまったのだ。店舗とワゴンに商品を載せ商店街を巡回する外売りのうち、どうやら店舗でお客さんにつり銭を少なく渡してしまったようなのだ。指導にあたる塚本先生は、「高校生が営業している店だから」といった甘えは許されないと苦言を呈す。

鳥取県米子市の本通り商店街にある「エデン」を経営するのは、市内にある学校法人米子永鳥学園米子松陰高等学校商業科の有志生徒およそ二〇名と塚本先生を始めとする山本、中山の三人の先生方。高校生たちは、交代で毎週土曜日と祝日には、朝九時半ごろからエデンにやってきて販売に携わる。授業のある平日は、商店街のおかみさんたちがアルバイト役を引き受け開店されている。

店内には、県内の境港水産高校が製造したサバやマグロの缶詰、北海道の旭川農業高校が生産したお米など、全国各地の高等学校の実習製品、ウニ、みそ、和紙などの北海道や沖縄などから仕入れた地域限定製品、さらに焼き物、地元の愛好家の手になるアクセサリーや小物などが並ぶ。

このエデンは、県と市がそれぞれ「次代の商業を担う若者の育成」と「中心市街地の



活性化」を目的に、地元の商工会議所、商店街などの支援を受け始められた事業で、高校生に商品の仕入れ、販売、接客、在庫管理、資金管理を―商売を―体験でおぼえてもらうというもの。この事業に松蔭高校が名乗りを上げ、取り組みが始まった。この活動に応募した高校生たちは、開店の半年ほど前から地元百貨店などに出向き、販売や接客の基本を学ぶとともに、店舗のコンセプトの検討、仕入れ商品の選定やその交渉、陳列作業などを行ない、昨年六月にエデンをオープンさせた。高校生シヨップとしては、鳥取県内では、鳥取市のシードに次いで二番目になるという。オープン当日は、マスコミの報道も相俟って市民の関心を呼び大盛況であったという。

その後も、高校生たちは、店舗経営の充実に努めていく。バーコードを導入したり、十月からは、午前と午後の二回、商店街を巡回する外売りも始めた。さらにはエデン独自のポイントカードの導入や十一月からはホームページも立ち上げ、インターネットによる販売も始めた。

ちなみに、集計に手間取ったこの日の売上げは、六万円ほど。この中には、商店街で自転車販売業を営む千村さんの注文したお歳暮もあった。「商店街の仲間として協力していこう」と千村さんは、エデンの製品をお歳暮に選んだ。

Heartful Place.
高校生ショップ
EDEN エデン



しかし、地域社会、地域の大人たちとの縁が薄いとされる若者たちが商店街の人たちとなじんでいる姿をみると、この活動の継続を望みたい。

学校側の負担や苦勞も大きい。

実を言えば、この店舗運営は、三年間の期間限定の予定。その背景には、県や市の補助金の問題もあるし、エデンが利益を出した場合、どのように処理するのかという問題もあるという。そして何よりも、高校生をほとんどつききりで指導している塚本先生たち教師や

高校生たちの動きをみると、立ち上げ時点から関与していた三年生とここ数回店頭に立ったばかりだという一年生との力差におどろかされる。レジでのお客さんの対応の仕方、店舗前の道路の掃除の仕方、声のとりといったことは言うに及ばず、集計作業で下級生に、時には先生にまでもハッパをかけている様子。さらにはワゴンでの外売りのときに気軽に道行くお年寄りや商店街の人たちに声をかけたりする三年生の姿を見ていると、開業から半年、準備期間を含めても一年でよくぞここまで商店街に溶け込んだと感心する。

連絡先

米子松蔭高等学校ホームページ
<http://www.yonagoshoin.com/>